

# 世界の主要登攀2014

池田常道（日本山岳会会員）

## 【ネパール/チベット】

### 1. エヴェレスト雪崩遭難とボイコット騒動

#### エヴェレスト（8,848メートル）

4月18日朝、西稜肩の側壁から剥離したセラック雪崩がアイスフォールを襲い、約25人が巻き込まれて16人が死亡・行方不明となった。犠牲者はすべてネパール人でクライミング・シェルパだけでなく、ABCで働くため荷揚げしていたコックなどの要員も含まれていた。捜索活動は、20日に13人目の遺体が発見された時点で打ち切られた。エヴェレスト史上最悪の遭難となったこの事故はシェルパたちの動揺を誘い、士気は著しく低下した。犠牲者に親族や友人も少なからず含まれていたうえに、まだ仲間の遺体が眠っている氷河に踏み込んで登山を続行することに逡巡を覚える空気が流れた。一方、クーンブ谷の外からきている若いシェルパたちは、今季の登山をボイコットするようアジ演説をぶち、従わなければ家族に危害を加えると脅した。表向きは、犠牲者に対する補償が安すぎるということだが、その底には、この事件を契機としてシェルパの待遇改善を図ろうとする思惑があった。シェルパの協力を得られなくなった公募隊は、順次BCを撤収した。登山を続行させる説得に失敗したネパール政府は、これらの隊に向う5年間有効の登山許可を与えた。

アイスフォールの保守にあたるシェルパたちは、すでに設置していたハシゴやロープの撤去を始めたが、登山続行を望むチームが二つ残った。米国女性クレオ・ワイドリッチ（51）のローツェ隊と中国女

性ワン・ジン（40）のエヴェレスト隊である。クウムへのヘリ使用は緊急時に限って許される。雪崩事故のあと物資の荷下げも特例として認められていたが、両者はこの混乱に乗じて、ヘリでクウムまで上がってしまった。ワン・ジンは5月23日にシェルパ5人とともに頂上に立って、ネパール側では今季唯一の登頂を果たしたのだが、アイスフォールをスキップしたこの「キセル登頂」にネ政府は証明書を交付した。クウムに上がってからいったんBCまで（歩いて）下り、そこで2日間休養したあとに登り返したとする彼女の弁明を受け入れたからだが、アイスフォールドクターのひとりは一笑に付し、今季ここを通過した登山者はいないと明言している。ワイドリッチ（51）はローツェフェースのC3地点を越えた7,600メートル付近で登頂を断念した。

チベット側では、雪崩事故の犠牲者を縁故にもつ一部のシェルパの離脱はあったが、遅れがちだったルート工作も成り、5月24日から翌日にかけて80人以上が頂上に立った。なかには、インド女性プルマ・マラヴァート（13歳11か月）も含まれ、女性の最年少登頂記録を更新したが、米国の少年ジョーダン・ロメロの保持する記録には1ヶ月及ばなかった。

### 2. その他の8000メートル峰

#### シシャバンマ（8,027メートル）

ルーマニアのホリア・コリバサヌ、ユスティン・イオネスク、スロヴァキアのペーテル・ハメルが4月30日に登頂した。春のヒマラヤで最初の8,000メートル峰登頂成功である。翌日には、イランのアジム・

#### 4. その他

ゲイチサズもC3から単独攻撃して頂上に立った。彼はこれで13座目に達し、イラン人初の14座完登までローツェを残すばかりとなった。

南西壁では、フランス陸軍高山会 (GMHM) 隊が、アルパイン・スタイルで82年英国ルートに登った。リオネル・アルブルー隊長、ブノワ・ジノン医師のほかクライマー4人の一行は4月24日、BC (5,300メートル) を建設、27日には5,600メートルにABCを設けた。ABCに上がったのは8日、攻撃は11日に開始された。セバスチャン・モアッティ、セバスチャン・ラテル、アントワヌ・ブルトン、マックス・ボニオはビバーク3回で登攀、頂上に立ったあと最初のビバーク地まで下った。

9月24日、シシヤパンマ北東壁上部でイタリアのアンドレア・ザムバルディ (32) とドイツのゼバスティアン・ハーク (36) が雪崩を踏み出し、600メートル流されて行方不明となった。二人はドイツのマルティン・マイアーと3人でチョー・オユーとの2座連続登頂を目指していた。9月中旬までに2回の試みが失敗した3人はこれが3回目の攻撃で、ザムバルディとハークが、登山許可を共有していたスイスのウエリ・シュテック (38)、ドイツのベネディクト・ベーム (37) と合同して北東稜から頂上を目指した。4人は24日朝の登頂を期して、23日にそれぞれの場所からスタート。シュテックとベームは午後4時半にABC (5,600メートル) を出発し、7,100メートル付近で全員合流。日付が変わった午前2時ごろ7,300メートル地点を越えたが、今季の北東稜でC2から上に進出した隊はなかったので、深い雪にトレイルを刻んで行かなければならなかった。6時50分、頂上まで100メートル余りを残す7,900メートル地点に達したものの、ザムバルディとハークの足元から雪崩が発生、流されて行方が分からなくなった。秋のシシヤパンマは降雪が多く、強風も各隊を悩ませ

た。この事故のあと有力公募隊は撤収、他の登山者も追隨、登頂者なしに終わった。

チョー・オユー (8,188メートル)

9月27日、デンマークのポー・クリステンセンが秋季最初の登頂を果たした。26日にC2から出発し、翌日午後4時、頂上に立ったもの。28日にはイタリアのアリチェ・カヴァレラ、アルベルト・パチェリーニ、ニコラ・ボナイティが登頂。翌日にもイタリアのルカ・モンタナーリとボグダン・ヴェレフ、デンマークのイヴァン・ブラウン、ポーランドのオレック・オストロフスキも登頂した。また、メキシコのユーリ・コントレラスとラウラ・ゴンサレスも頂上に立っている。公募隊関係ではサミットクライム隊が28日に登頂。IMG (インターナショナル・マウンテンガイド) 隊もガイドと顧客9人とシェルパ6人の計15人を頂上に送った。AAI (アルパインアッセンツ・インターナショナル) 隊も29日朝に全員登頂、AC (アドベンチャー・コンサルタンツ) はガイド2人に顧客6人とシェルパ8人を登頂させた。この日はスイスのコプラー・アンド・パートナー隊からも6人が頂上に立った。

カンチェンジュンガ (8,586メートル)

カザフからロシアに国籍を戻したデニス・ウルブコが、アルチョム・ブラウン、ドミトリ・シニェフ (ロシア)、アダム・ビエレッツキ (ポーランド)、アレックス・チコン (スペイン) と5人の隊を組んで北壁のヤルン・カン (8,505メートル) 寄りに新ルートを求めた。しかし、セラックの状態が悪いので、順応行動に使った79年英国ルートのノースコルへ北稜をそのまま登ることにして5月15日に攻撃を開始。南西面への横断を狙うシニェフ、ビエレッツキ、チコンは18日、一足先に登頂を目指したが、時間を食い

過ぎたため8,500メートル付近で断念した。ウルブコとブラウンは19日に頂上を目指し、最後はウルブコだけが頂上に立った。

南西面通常ルートからは、17日から19日に約20人が登頂した。まず17日には、イタリアのロマーノ・ベネト、ニヴェス・メロワ夫妻が12座目の8,000メートル峰に無酸素で成功、夫婦での14座完登まであと2座とした。18日には、スペインのベテラン、カルロス・ソリア(75)が11座目の登頂を果たした。同日、インド女性チャンドラ・ガイエンも登頂したが、彼女は4日後にヤルン・カンに向かったまま、同行した2人のシェルパとともに消息を絶ってしまった。ガイエンは前年エヴェレストとローツェに連続して登頂しており、今回も連続記録を狙ったものの。

#### マカルー(8,485メートル)

カナダ、アメリカ、フランス、中国、スペイン、スロヴァキアなどの各隊が通常ルートに挑んだが、4月28日、フランスのヤニック・ガニエレが肺水腫で死亡した。5月17日から25日の間に約50人が、すべて北西面通常ルートから頂上に立った。まず17日にスイスのマイク・ホルンとフレッド・ルーが最初の登頂を今季唯一の無酸素で果たした。翌日にはフランスのフィリップ・ガッターら4人とカナダのアル・ハンコックも登頂。1週間後の25日には、ラッセル・ブライス隊長のHIMEX隊が隊員7人とシェルパ6人を頂上に送った。この日はウィリー・ベネガスにガイドされた16歳のマット・モニス(米)もシェルパ2人とともに頂上に立ち、この山の最年少登頂者となった。モニスは、ベネガス兄弟のガイドする公募隊でチョー・オユーに登り、その足でマカルーにやってきたもの。

#### ローツェ(8,516メートル)

ホン・スンテク隊長(47)ら6人の韓国隊が秋の南壁に向かった。9月初めにBCを設け、90年秋にロシア隊が登ったラインの右に食い込むクーロワールを狙って5,800メートルにC1。しかし、ルートの難しさに加えて、しばしば落石や雪崩に妨げられ、C2(6,800メートル)とC3(7,500メートル)を設けるのに1ヶ月以上かかってしまった。その後ベンガル湾を北上したサイクロンの影響で10月中旬はひどい雪嵐になり、日程はますます遅れた。最終キャンプC4を8,200メートルに建てて頂上を狙うべく11月1日から攻撃に取りかかったが、6日目に7,800メートルに達したところで断念した。

#### マナスル(8,163メートル)

昨年同様、チベット側のチョー・オユーとシシヤパンマが登山可能になったので、2年前のように大勢の登山者が殺到してキャンプ地が混雑することもなかった。9月中旬には大きな雪崩がC2付近を襲ったが、安全地帯をはみ出してテントを張るような隊もなかったため、人的被害は免れた。ルート工作にはHIMEXとアルティテュード・ジャンキー(カナダ)公募隊のシェルパがあたり、今季はC1~C2間のクレバス帯にハシゴも設置された。顧客のなかには「将来、エヴェレストのアイスフォールを通るためのいいトレーニングになる」と歓迎する声もある。

両隊は9月25日に頂上を攻撃し、前者から隊員11人とシェルパ9人、後者から隊員・シェルパ各6人が登頂した。ポーランドの山岳スキーヤー、アンジェイ・バルギエルは4,500メートルのBCから14時間5分で頂上に立ち、ドイツのベネディクト・ベームが2年前に作ったレコード15時間を更新した。以後アミカル・アルピンや日本のアドベンチャーガイズなどの公募隊、インディペンデントの個人など多数も頂

#### 4. その他

上を目指し、10月2日までに50人以上が登頂した。なお、9月26日にイエティ同人の佐々木慶正さん(59)はガイド登山中、エプロンの下りで滑落死した。81年アンナプルナ南壁や82年冬季エヴェレストで活躍したクライマーだった。

#### ダウラギリ I 峰 (8,167メートル)

北東稜通常ルートに向かっていたスロヴァキアのスキー隊(ヤンコ・マトラク隊長ら5人)は10月14日にBCが雪崩に襲われ、隊員2人とネパール人BCスタッフ3人が埋没死した。この5人は自分たちのテントごと埋められたものだが、他のメンバーはたまたまメステントに集まっていた難を逃れたという。遺体は2日後の16日に発見された。この雪崩はサイクロンの余波でヒマラヤ一帯に降った大雪によるもので、アンナプルナ山群一周トレッキングコースで多くのトレッカーが遭難、40人近い死者が出た。

#### 3. 6,000メートル峰

##### タムセルク (6,623メートル)

ロシアのアレクサンドル・ゲーコフとアレクセイ・ロンチンスキーが南西壁を初登攀した。クスム・カングル北稜上の5,572メートル峰を試登し、アイランド・ピークに登って順応してから攻撃に移り、1986年にスペインのホセ・マヌエル・ゴンサレスら4人が6,300メートルまで迫った中央クローワールの左に伸び上がる側稜に取付いた。ルートはおもに氷雪とミックスで、中間部にA3の4ピッチを含む岩壁がある。4月27日に登り始め5,325、5,600、5,780、6,100、6,350、6,670メートルとビバークの末5月3日頂上に立った。帰路は、64年にヒラリー隊が初登頂した南稜を7ピッチ下り、南西面の側壁を22ピッチ懸垂下降した。標高差は1,600メートル強、傾斜70

度。旧ソ連グレードで6A+、「恥ずかしがり屋の娘」と命名された。エヴェレスト街道からよく見えるタムセルクはこれがまだ第6登。ヒラリー隊に続いて、79年の日本エクスペディションクラブ隊が南西壁の左寄りから西稜を経て第2登し、翌年には山学同志会隊が北壁から登頂している。

##### キャシャール谷無名峰 (6,325メートル)

キャシャール谷はドゥード・コシ左岸の支流で、ピーク43から西側に流れ下る。この山の別名キャシャールはこの谷の名前からとられたもの。スペインのミケル・サバルサとその生徒5人が6,325メートル峰に初登頂し、サカトンと名付けた。ルクラから2日間でBCを設けた一行は、付近の小ピーク数座に登って順応してから、9月25日に登攀を開始。1,300メートル、スペイングレードMD+のルートに登ってPura Vidaと命名した。

##### ロールワーリン・ヒマールの新ルート

ネパールでは、高峰登山が一段落する10月中旬から11月にかけて6,000メートル峰のアルパインクライミングが盛んになる。この時季は好天が持続し、適度な寒気で氷結状態がよくなるからだ。その傾向は今季も続き、以下の初登攀が記録された。

アメリカのアラン・ルソーとティモ・ヴィラヌーヴァは、まずパルチャモ(6,275メートル)西壁を狙った。標高差1,200メートルの壁は、ルソーによると「縮まった氷雪壁とウォーターアイスの溝、固い花崗岩壁」から成るが、上部では傾斜60度の雪壁で、ときおり首まで潜る深雪のラッセルを強いられたという。10月31日、12時間を要し、暗くなってから登りきった二人は、強風の中、通常ルートの北稜を下って真夜中にBCまで帰った。その後彼らは、主目標テンギ・ラギ・タウ(6,938メートル)西壁に向かった。高さ

1マイルに及ぶ未踏の壁である。チリ雪崩の落ちるなか、薄く氷の張り付いた壁を6,200メートルまで登ってピバーク。翌日、日没まで数時間を残して次のピバーク予定地に着いたが、そこは落石・落水に無防備な場所だった。危険にさらされて一夜を過ごすわけにもいかず、25回の懸垂下降を繰り返し、8時間かけて基部に降り立った。

アメリカのサム・ヘネシーとスロヴェニアのドメン・カステリッチはチュキマゴ(6,258メートル)西壁を初登攀した。トレッキング・ピークのヤルン・リ(5,647メートル)に登って高所順応、10月中旬以降数日間の好天が訪れるという予報を得て、西壁に取付いた。ルートは標高差900メートルの壁の左寄りに採る。出だしでは深い雪に悩まされたが、中間部は良好な氷とミックス壁にめぐまれた。上部では新雪のため登攀スピードが鈍ったものの、日暮れ前に北稜に抜け出してテントを張ることができた。ここから頂上までは鋭いリッジが続き、短い区間にたっぷり3時間を要した。テントに戻って登路を下った二人は、その日のうちにキャンプまで帰った。

スペインのオリオル・パロとパウラ・アレグレは、チュキマゴの西にある前衛峰(チュキマ・チック、約5,950メートル)に登ってルートをインフレティ(700メートル、TD-)と命名した。二人は10月31日にチェキゴ(6,257メートル)南壁の左手から標高差1,200メートルに及ぶラインを試みたが、数百メートル登ったところで断念した。

同じスペインのマニュ・コルドバ、ジョルディ・コロミナス、ジョナタン・ララニャガは、11月にチュキマ・チックを登って高所順応してから、パロとアレグレのそれよりダイレクトなラインを初登攀してシヴァ(1,200メートル、AI5、M6)とした。前半部は巨大なセラックの下をたどり、コルドバによれば、プロテクションの取りにくいM5が第一の核心、

第二、第三のそれは困難なアルパインアイスの登攀だったという。標高6,000メートルを超えるとM6のミックスが続き、最後は不安定な新雪が降り積もった300メートルの稜線となる。雪の中をもがきながら進み、取付いてから22時間で登りきった。

#### ランシサ・リ(6,427メートル)

ウクライナのミハイル・フォルミン、ヴィアチェスラフ・ポレジャイコ、ニキータ・ラバノフは、秋に北西バットレスをアルパイン・スタイルで初登攀した。標高差1,600メートルのルートで、所要6日間、下降にはさらに2日間を要した。

#### マンサイル(6,242メートル)

井上由樹子隊長(24)ら5人の日本山岳会学生部女子登山隊がムスタンの未踏峰に登った。9月20日にBC(4,888メートル)に入り、北面を回り込むルートに25日C1(5476メートル)、27日C2(5,684メートル)を出して、29日に隊長と長谷川恵理(22)、中村真理子(22)が、顧問として同行した谷口けい(42)とともに登頂した。頂上でのGPS表示は6,165メートルだったという。頂上に着く前から雪が降り出し、下降は本降りのなかだった。かなりの積雪となったため、予定していたマンサイル南峰(6,251メートル)とムスタン・ヒマール(6,195メートル)は諦めて撤収した。

#### 【中国・四川省】

#### チョンライ山系岩峰群

米ウエストヴァージニアのパット・グッドマンが9月11日から約1ヶ月、四川省を訪れ、ブラジル人のマルコス・コスタ(33)とセエルデンプー(5,592メートル)西壁を目指した。コスタはこの7年間で

#### 4. その他

国に住んで、スポーツ、トラッド、アイスなど広範囲にわたってクライミングを行なってきた。一方、グッドマンはこの未踏の壁（900メートル）に過去5回トライしていた。今回は、入山してから3日間で300メートルを稼いだが、頻発する落石に追い返された。二人は、南側のスカイラインを形成する5,467メートル峰に取付き、長く複雑な南東稜を10時間で登ってMoo Moo Ridge（1,000メートル、5.10+ R）とした。このピーク自体は登頂した記録が見当たらないので、未踏峰だと思われる。続いてダグーの双耳峰を擁する支谷に入ると、フランス・チームに出会った。エロディ・ルコント、オレリー・ディディオン、シモン・デュヴェルニー、セバスチャン・ラテルの面々で、彼らは5,100メートル峰の東壁にLes rescapes de la Foret Magique（600メートル、7b A2）を拓いた。またこのピークには「4頭の豚」の名を与えている。

グッドマンとマルコスは5,184メートル峰の北西壁に向かった。壁には数日前の嵐がもたらした雪がまだ残っていたが、二人は300メートル、5.11の新ルートFunを数時間で登った。西の方に見つけたオレンジ色の壁（200メートル）に数日かけたあと、ダグー東峰（5,462メートル）南面のピラーを登攀。スコールと寒さに悩まされたが、楽しめるクライミングだった。ルート名はSouth Pillar（700メートル、5.11+）、ルート中にアンカーなど登った痕跡は見られず、おそらく初登攀であろう。ダグー東峰は、記録にある限りこれが第2登である。なお、2008年の四川大地震でこのあたりの岩峰も多数崩壊し、ダグーの標高は4メートル低くなった。また、2005年にチャド・ケログがジョー・ピュリヤー、ストーニー・リチャーズと拓いた南壁ルートは、ほぼ完全に消滅してしまった。

中国のリウ・チシヨンは9月20日、5,694メートルのアビ山で南壁を単独で初登攀した。2002年2月に

初登頂されて以来8回登られたアビ山だが、南壁右のエッジをたどって東稜に出るラインは登られたことがなかった。所要14時間、標高差1,100メートルで5.9 AI2+（壁の中段に雪田がある）。

#### 【インド】

#### ハグシュ（6,657メートル）

新たな標高が発表され、東部キシウトワールの最高峰となったハグシュで北壁と北東壁が登られた。前者はマルコ・プレゼリら3人のスロヴェニア隊、後者はミック・ファウラーとポール・ラムズデンの英国ペアによるものである。

もともとは、ファウラーが北壁に挑戦する意向を明らかにしていたハグシュだが、IMF（インド登山財団）はスロヴェニア隊とアメリカ隊（ジャレッド・ヴィルハワーら3人）にも許可を与えてしまった。まっさきに入山したのはプレゼリ以下アレシュ・チェセン、ルカ・リンディッチのスロヴェニア隊で、ハグシュ氷河の西岸4,400メートルにBCを置くと、順応目的でラガン（5,750メートル）に登頂、さらに4,660メートル地点にABCを出して6300メートルのHana's Menに登った。9月29日から北壁に取付き、23時間登り続けて6,320メートルの狭いリッジでビバーク。翌朝遅く登攀を再開して午後5時ごろ頂上に立った。頂上直下でビバークした3人は89年にポーランド隊が（無許可で）初登頂した南東稜を下降した。北壁ルートはED、Ⅲ、70～90度である。

遅れてBCに入ったファウラーとラムズデンは、プレゼリらの成功を知って北東壁に変更した。北壁の左端に位置するクーロワールをたどって、2日目にプレゼリらのビバーク地に到達。あとは同じルートを経て頂上に出て南東稜を下った。許可の優先順位がIMF内でどのように扱われたのかは分からないが、

最初に目標を選定して名乗りを挙げていたファウラーには、悔やまれる結果となった。

#### バルナジⅡ峰 (6,340メートル)

ヴィルハワー以下ティム・ディットマン、セス・ティンパノのアメリカ隊はハグシュを敬遠してバルナジに向かった。北東壁を試みたあと南壁に挑んで頂上直下まで迫ったものの、登頂は成らなかった。

#### キシウトワール・シヴリン (6,000メートル)

アンドレアス・アーベグレン、トーマス・ゼンフ、ステファン・ジークリストの3人から成るスイス隊は、キシウトワール・シヴリンとその周辺で活動した。9月上旬に5,855メートルピークの下にBCを設けて南面からこの無名峰を攻撃。5,100メートルでピバークした翌16日に登頂してShiepraと命名した。ルートはIV、WI3、75度。続いて3人は5,840メートル峰に向かい、南東壁から頂上に立ってKharagosaと名付けた。標高差1,000メートル、グレードは6a M4。最後は、83年に英国のディック・レンショーとスティーブン・ヴェナブルズが登ったキシウトワール・シヴリンを新ルートから目指した。標高5,400メートルから先は、フィッツロイのスーパークーロワールを想起させるWI5のクーロワールを10ピッチ登ったが、5,895メートルの東峰までで終わり、頂上の第2登は成らなかった。

#### ミヤール・ナラ

シリル・ベッシュ、エリアス・グミュンダー、アルネス・カマンドウリス、ゲドミナス・シムティスの4人から成るスイス＝リトアニア隊が8月から9月にかけてロータス・タワーのタクドゥン氷河に面する南東壁を初登攀して、ルート名をSplitter and Storm (500メートル、TD 6a) とした。ミヤール・

ナラがクライミングの対象となってから20年以上経つが、タクドゥン氷河に入ったのは2008年のイタリア隊と13年のアメリカ隊しかない。ロータス・タワーもネヴァーシオン・タワーも、反対側のチュドン谷から登られており、ロータス・タワーがこちら側から登られたのは、これが初めてのことである。

マリナ・コプテワとガリナ・チビトクのロシア女性ペアは、ゴールデン・センチネル (5,200メートル) 北西壁「侍の娘」を秋に初登攀した。1,000メートル、VI、A3で所要7日間。

#### テルトップ (6,185メートル)

英国のマット・バーンズリーら4人にアメリカのチャック・ボイド、インドのダウ・ヌルブ・シエルパとタシ・ブンチョク・ザンゴラ、ヴィレンダー・シン、ネパールのプジュン・ポーテの10人から成るチームが10月に初登頂した。ルートは北西壁から南西稜に出るもので、70度のアイスセクションがある。ルート全体のグレードはDとされている。

#### 【パキスタン/中国・新疆ウイグル自治区】

##### 1. ナンガ・パルバット冬季登頂成らず

K2と並んで最後まで冬季未踏の8,000メートル峰として残っているナンガ・パルバット (8,126メートル) に2013/14年冬は4隊が挑戦した。西面ディアミール側に2隊、南面ルパール側に2隊である。

8,000メートル峰14座登頂者のラルフ・ドゥイモフィッツ (独) はダリウシュ・ザルスキ (ポーランド) のサポートを受けて、西壁のメスナー・ルートに向かった。78年に単独登頂したメスナーが登りに採ったルートで、西壁右手の懸垂氷河帯を縫うようにたどるもの。夏は通常ルートとなる62年ドイツ・

#### 4. その他

ルートを探らないのは、冬季には雪が吹き飛ばされて青氷の壁と化してしまい、とても手が出ないためである。2013年6月、BCがテロリストに襲われて11人が犠牲となった事件以後初めて外国人がこの谷に入るとあって、3人の警官が護衛してBCに滞在するというものしきだった。BC入りしてから、4,900メートル地点にキャンプを出した。13年12月30日には5,500メートル地点を往復して順応を図ると同時に、そこをC1予定地と決めた。ところがこの場所は、メスナー・ルート下部の懸垂氷河が崩壊すると真っ先にセラック雪崩を受けそうなところだったので、念のため4,900メートル地点まで戻ってC1を設けた。結局二人は1月2日に断念を決めたが、翌日撤収・下山する間に雪崩がキャンプ跡地を襲うのを見て、胸をなでおろした。

ディアミール側に向かったもう一人はイタリアのダニエーレ・ナルディで、彼は前シーズン、フランス女性エリザベート・ルヴォルと二人でママリー・リブを試みて、6,400メートルまで達していた。1月20日まで出発を遅らせたナルディは、ドゥイモフィツ隊と同じく護衛付きで月末にBC入り。ガナロ・ピーク(6,608メートル)を上下して高所順応を図った。その後4,900メートル地点にC1を設けて物資を荷揚げしたが、うち続く悪天候と雪崩の危険にさいなまれ、2月中に断念した。

今季まっさきに入山したのはルパル側のポーランド隊だった。今回が3回目の挑戦にあたるトマシュ・マツキェヴィッチとマレク・クロノフスキがヤーツェク・テレル、パヴェウ・ドゥナイと4人でチームを組み、ミハル・ジコフスキとミハル・オブリツキにサポートされて南西稜(76年シェル・ルート)に挑んだ。マツキェヴィッチは昨年同ルートに向かい、2月に単身7,400メートルまで達している。冬のナンガ・パルバットで標高7,000メートルを超えたのは、

彼のほかに二人しかいない。12月初めに入山した一行は周辺で順応行動を進め、冬が始まる冬至を待って取付いたが、年が明けてからクロノフスキ夫人に赤ん坊が誕生したという知らせが届いたため、急遽登山を取りやめて帰国してしまった。

イタリアのシモーネ・モーロはすでに冬季初登頂3座(シシャパンマ、マカルー、ガツシャブルムII峰)を獲得している。ナンガ・パルバットには12年にディアミール側を試みているが、今回はルパル側から、ポーランド隊と同じルートに向かった。

先に入山して準備のととのっていたポーランド隊が先行してルート工作に当たる間、モーロとダーフィット・ゲトラー(独)、エミリオ・プレヴィターリ(イタリア)は順応を急いだ。モーロとゲトラーはポーランド隊に追いつき、1月28日には6,700メートルと6,800メートルの間にC3を設けた。マゼノ・ギャップ(6,900メートル)は目前だが、2月なかばに行なわれた攻撃は天候悪化のため途中で引き返した。最後にはマツキェヴィッチとゲトラーが組んでマゼノ・ギャップを越え7,200メートルまで達したものの強風に見舞われ、そこで引き返した。モーロとゲトラーはこれで断念したが、ポーランド勢は3月に入っても粘った。3月8日、ルート工作に出たドゥナイとオブリツキがC1下で雪崩に400メートル流されて負傷、救出された。4ヶ月近くにわたった挑戦もこれで終わり、ナンガ・パルバットはK2と並んで冬季未踏のまま残ることになった。

#### 2. K2初登頂60周年のにぎわい

初登頂60周年のK2(8,611メートル)は好天にめぐまれ、7隊48人が頂上を踏んだ。2004年の51人には及ばないにしても、それに次ぐ数字である。

今季の好天期間は7月22日に始まり、8月初めま



で続いた。アブルツツイ稜下部で行き悩んでいた各隊はこれを利用して一気にキャンプを進め、7月26日の頂上攻撃につなげることができた。この日は初登頂60周年を記念するパキスタン＝イタリア隊の8人を初め、スペインのフェラン・ラトーレ、イタリアのジュゼッペ・ポンピーーリら3人、オーストラリア女性クリス・ジェンセン・バークとラクパ・シェルパ、チェコのラデック・ヤロシュら2人、ネパールのシェルパニ（女性シェルパ）隊3人など49人が頂上に立った。なお、ヤロシュはチェコ人として初めての8,000メートル峰14座完登を、全山無酸素で達成した。翌27日にはアメリカのギャレット・マディソンら3人とシェルパ3人、フィンランドのサムリ・マンジッカ、イランのレザ・シャーレ、マケドニアのズドラヴコ・デヤノヴィッチらが登頂した。なお、スペインのミゲル・アンヘル・ペレスは26日に無酸素で攻撃したが頂上の300メートル手前で断念。いったんC4まで帰ってから、酸素を使って28日に頂上に立ったものの、帰途ボトルネック上部でビバークに追い込まれた。彼は翌日C4に帰り着いたが、次の朝、自分のテントで死んでいるのが発見された。K2における今季唯一の遭難死である。さらに31日にもブルガリアのボヤン・ペトロフとポーランドのヤヌシュ・ゴワブ、マルチン・カチカンが続いて今季のK2を締めくくった。ペトロフは23日にブロード・ピークにも登っていた。

最終キャンプから頂上までのルート工作は、60周年隊のパキスタン側メンバーとセブンサミッツ公募隊ほかに所属するネパール・シェルパをかき集めて行われた。30人が登頂した一昨年同様、これがなければ大量登頂が実現しなかったことは疑いない。

#### ブロード・ピーク（8,051メートル）

K2を上回る登山者が殺到したが、半数以上はK2あ

るいは他の山に向けての高所順応を目的として許可を取ったもの。7月23日と24日に32人が登頂したが、これに間にあわなかったチームはさっさと切り上げて本来の目標に向かった。イエジ・ナトカンスキらのポーランド隊は中央峰（8,011メートル）を目指していたが、24日の攻撃は頂上まで100メートルを残して敗退。同日主峰に向かった隊長ら3人が登頂した。

#### 3. その他のカラコルム

##### マッシャブルム（7,821メートル）

オーストリアのダーフィット・ラマとペーター・オルトナーがハンスイェルク・アウアーと3人で北東壁を目指した。ブロード・ピーク西稜を7,000メートル台まで往復して順応した3人は、頂上に固執することなくマッシャブルムBCに移動したが悪天候が続いて、BCで長期の停滞を強いられた。その後気温が上昇したため雪面は緩み、落石・落水、チリ雪崩が降りそそいだ。各自13kgの荷物で速攻を狙ったものの、BCから400メートルばかり、7,000メートル地点から始まるヘッドウォールまで行き着かないうちに断念した。マッシャブルム北東壁にはスロヴェニアのマルコ・プレゼリやロシアのアレクサンドル・オディンツォフが過去に挑んでいるが、いずれも十分に高度を稼げないまま敗退している。

##### パイユ（パユー、6,601メートル）

アルベルト・イニエラテギ、フアン・バレホ、ミケル・サバルサのスペイン・バスク隊が前年の試登に引き続いて南壁に挑戦した。一行は固定ロープを伸ばしながら5.10d、A3、M5の壁を登攀、6月26日に南壁の頭（約6,000メートル）まで達した。そこから頂上への稜線には険悪なセラックが立ちはだかつていたため、無理押しすることなくBCへ下った。往

#### 4. その他

復10日間の登攀だった。なお、終了点手前で中型の電子レンジサイズの落石がバレホの肩を直撃、鎮痛剤と抗炎症薬の助けを借りて最後まで登りきった。

#### K 7 (6,934メートル)

横山勝丘、長門敬明、増本亮がチャラクサ氷河でK7西峰(6,858メートル)から主峰への壮大な縦走を試みた。西峰の南西にある支峰は南面に1,000メートルを超える岩壁を持ち、ベルギーのニコラ・ファブレスらが2007年に初登してバダルウォールと呼んだが、支峰の頂上まで行くことなく岩壁の頭から下降していた。今回のトリオは、その後バダルピークと仮称されるようになったこの支峰に南東稜から取付いた。7月25日に下部岩壁をフィックスした後30日に登攀開始。複雑な形状のリッジに苦勞し、3日目から天候は下り坂。4日目に降雪の中、最上部のミックス壁を登って支峰の頂上(初登頂)に出た。さらに北に続く雪稜から西峰を目指したが、悪天候や増本の負傷、食糧の不足、前途の長さなどを考慮して途中のコルで断念、5日目に西面のガリーを懸垂下降した。ルート名は未定ながらVI 5.11c M5 70度。なお、この支峰は6,300メートルとされてきたが、せいぜい6,100メートル前後だという。

#### ガッシュブルムV峰(7,147メートル)

アン・チャンらの韓国隊が7月、アルパイン・スタイルで初登頂に成功した。アン・チャンとソン・ナクジュンはまず北東壁を目指して6,400メートルまで達したが、頻発する雪崩で断念。BCを南面に移して南東壁を狙った。7月23日、新たなBCから氷河を3.5キロメートル遡って9時40分、5,700メートル地点のベルクシュレントに達した。これを越えて11時に登攀を開始。BCから1,800メートルの高度差を稼いで、深夜に6,550メートルのクレパスでビバークした。

翌日上部壁を登ろうとしたが、雪崩の危険と自分たちの疲労を考慮してビバーク地まで戻って休養。25日は午前3時に出発し、終始困難なミックス壁をたどって午後7時20分、頂上に出た。暗闇の中の下降は困難をきわめたが、登りの足跡を発見して下り続け、26日の午前3時45分にビバーク地に帰った。その日朝9時から下降を始め、午後6時45分にBCに着いた。

#### 4. アギール山脈とコングール山系

##### ドウルビン・カンリII峰(6,898メートル)

アギール山脈に属する未踏峰で、初登頂を企てていたスロヴェニア隊が遭難した。アレシュ・ホルツとペーテル・メジナルが頂上を攻撃したものの、7月5日の連絡を最後に消息を絶ち、下山予定日の15日を過ぎても帰らなかったもの。中国では珍しくヘリによる捜索が行われたが、痕跡を見つけることはできず、10日後に打ち切られた。

アギール山脈には30以上の6,000メートル峰があるが、そのほとんどが手つかずのまま。1899年のヤングハズバンドに始まる初期の探検のあと、1926年のメイスンや35年のフィッサー夫妻、37年のシプトン＝スペンダーが一带を測量した。戦後48年にシプトンとティルマンが5,200メートルまで試登したチャクラギール(6,678メートル)は、88年に明治学院大隊が初登頂。94年にはクルト・ディームベルガーが5,959メートル峰に初登頂し、97年にニュージーランド隊が同峰の第2登と合わせて6,068メートル、6,350メートルの両峰に初登頂した。

##### ココダク・ドーム(7,129メートル)

コングール山系に属するピークで、主峰ココダクI(7,210メートル)は2006年ロシア隊によって初登

頂された。ルイス・シュティツィンガー隊長（45）の率いるドイツのアミカル・アルピン公募隊は、オーストリア人を含む顧客13人とネパール・シェルパ人の16人で、ドームの初登頂を目指した。キルギスから国境を越えて新疆に入り、7月初め、カラク湖畔から4,300メートル地点にBCを設けた。碎石地帯から雪稜へとルートを開き、5,525メートルにC1、6,300メートルにC2とキャンプを進める。C1の先は、高度感のある美しい雪稜になっていた。ルートはC2まで06年ロシア隊のそれと同じだが、そこから先は別ルートになる。7月22日、一行はBCをあとにC1、C2と泊まって、24日午前3時に頂上を目指した。雪が深くなってきたのでパーティを三つに分け、隊長以下強力メンバーがヒザまでもぐる雪をかき分けて道を作る。頂上には、ほぼ同じ高さの頂が三つあり、GPSで高度を測りながら最高点を求めた。先頭グループは9時に登頂、二番目が9時45分、最後の組は10時半にそれぞれ頂に立った。

#### 【キルギスタンとカフカス】

##### アク・スウ谷

イタリアのルカ・スキエーラとマッテオ・デ・ザイアコーモが新ルート2本、再登3本を登った。まず6月26日、セントラル・ピラミッド（オルトテュベック、3,895メートル）の未踏の南壁を偵察し、ラインの目途を付けてから翌日に登攀。クラックは予想したより広がったが100メートルほどで尽き、あとはコーナーをたどる。頂上手前で雲が湧き出して下降を急ぐが、登りと同じ8時間を要した。BCからの往復には22時間かかった。ルート名はAtlantide（700メートル 6c/7a）。雨が降り続いて待機に飽きた7月8日、プティ・トゥール（3,500メートル）のフランス・ルート（280メートル 6c）をオンサイトしたと

き、ロシアンタワー（スレソフ、4,240メートル）の巨大な壁に目を魅かれ、ペレストロイカ・クラックを9～10の2日間で登った。800メートル、7a/bで所要12時間。最後に15日、スキエラが単独でセントラル・ピラミッドのバットレスに300メートルの短いスラブ・ルートを拓いて、La Bollaとした。

##### キジル・アスケル（5,842メートル）

セルゲイ・ニノフら3人のロシア隊が、南東壁ダイレクトを11日間で初登攀、「戦争と平和」と命名した。1,150メートル、旧ソ連グレードで6B。

8月、エクアドルのエステバン・メニャら4人が南壁のピラーのひとつに新ルートを開こうと試みた。8月18日からカプセル・スタイルで登攀を開始して、6日間で11ピッチをフィックス。もっぱらクラックシステムをたどるが、9ピッチ目と10ピッチ目に5.12aのオーバーハングが出てきた。さらに2日間で4ピッチ伸ばして頂稜に通じるコーナーの基部に達した。天候悪化を懸念して8月28日午前3時、5,100メートルのC1を出て頂上攻撃に移った。出発後20時間で標高5,700メートルまで登ったが、すでに天候は変わり始めており、そこを最後に断念、下降した。取付きから1,100メートルの地点だった。ここまでのグレートは5.12a C1 WI5+ AI2 M6+。

パミールのスヴァログ（4,960メートル）では、コンスタンティン・マルケヴィッチら4人が6B、1,250メートル、A3+の壁を初登攀した。

このほか旧ソ連邦域内の山では、カフカス（コーカサス）で、ニコライ・タトミヤニンら4人のサンクトペテルブルグ・チームが2013年12月23日から1月7日にかけて、12日間のアルパイン・スタイルでベゼンギ・ウォールの全山を冬季初縦走した。

#### 4. その他

### 【アルプス】

#### 1. モン・ブラン山群/ヴァリス山群

##### グランド・ジョラス (4,208メートル)

北壁ウォーカー側稜の左手には、北東壁デメゾン＝グソー・ルートとの間に、チェコのトーマス・プロハズから4人が79年7月に初登したローリング・ストーンズ (1,100メートル、VI A3、80度) がある。岩がもろいため再登は少なく、85年にスロヴェニアのシルヴォ・カロ、ヤネズ・イエグリッチ、スラヴコ・スヴェティチッチが第2登して以来、冬に限って登られることが多かった。記録上では、2011年にフランスのパトリス・グレロン＝ラパらが登ったのが冬季第4登に数えられているばかりである。

スロヴェニアの若手、ルカ・リンディッチとルカ・クラインチは3月中旬、このルートのフリー初登攀に挑んで成功した。レショ氷河でビバークした翌日の12日に登りはじめ、3日目に核心のA3ピッチをM8のドライツールリングで突破、4日目の夕刻、頂上に立った。おりからの強風を避けてすぐさま南壁を下るが、途中でもう1回ビバークを余儀なくされ、6日目にクールマイユールに戻った。

##### ダン・デュ・ジェアン (4,013メートル)

6月29日、めったに訪れるクライマーもいない北西壁に新ルートが拓かれた。フランスのクリストフェル・ボー、ブリス・ブイヤヌ、ジョナタン・シャルレの3人によるもので、頂上まで約10ピッチ、560メートルのライン。ジェアン北西壁は1981年にイタリアのステファノー・ディ・ベネデッティとR・ルイジによって登られた (TD)。彼らは氷の張り付いた岩と報告しているが、この高所では珍しいドライ・コンディションのときしか勧められないと見られて

きた。今回採ったアプローチは、ミディ頂上駅からヴァレ・ブランシュを横切ってジェアン氷河をたどり、頂上から北西に延びる長い尾根を3,622メートルのコル・シュペリユール・ド・ラ・ノワールまでたどるもの。コルからジェアン直下の氷河盆地に下り、午前10時に取付いた。岩質は思いのほかよく、M5のドライツールリングが続いた。中間部にハートの形をしたオーバーハングがあったことから、ルート名はCoeurs de Geants (ED)。

##### エギーユ・デュ・プラン (3,673メートル)

往年のクラシックルートにドライツールリングで新たな境地を開いているジェフ・メルシエ (仏) とコッラ・ペステ (イタリア) が、西壁ボニントン・ルートをフリー化した。クリス・ボニントン (英) とリト・テハダ＝フロレス (米) が1965年7月に初登したもので、1946年グレロ＝ロック・ルートの左にある岩稜を400メートルあまりたどってから、北面するディエードル (べったり氷におおわれていた) を200メートル以上にわたって登るもの。フレンズなどの新兵器が登場する10年も前の話で、こんにちのようなアイスギアもなかったことを考えると、VI級にA3をまじえたとはいえ、卓越したミックス技術とビバーク1回で乗り切ったスピードに驚かされる。シャモニに住み、山麓からも認められるこのラインを観察していたペステは、古いヴァロガイド (1974年版) をチェックして、彼らが登った7月下旬でもディエードルに氷が張り付いていたことを確認、4月初めの好コンディションを狙って取り付いた。側稜の下部は、ボニントンらが登って以来、たび重なる崩壊で荒れていたため、左のクローワールから迂回して時間を節約し、11時30分上部ディエードルに取りかかった。期待したとおり氷結は十分で、深いチムニーからあらゆるサイズのクラック (最高M7) をたどり18時頂上に抜けた。

## マッターホルン (4,478メートル)

イタリアのエルヴェ・バルマッセが3月17日、マッターホルンの4つの山稜を単独、所要17時間で冬季継続登攀した。まずフルッケン稜（南東稜）を登ってヘルンリ稜を下降。北壁下部をトラバースしてツムット稜（北西稜）に出て再度登頂。リオン稜（南西稜）を下ってカレル小屋に下ったもの。マッターホルンの全山稜踏破は1985年9月に、彼の父親であるマルコが今回と同じ順番で単独初登攀したものであった。チームでの記録としては、92年8月にイタリアのハンス・カマーランダーとスイスのディエゴ・ヴェリッヒが、ツムット～ヘルンリ～フルッケン～リオンの順で第2登。さらにリオン稜を登り返してヘルンリ稜を下る継続登攀を23時間半で達成している。エルヴェの記録は第3登にあたるが、冬季に成されたのはこれが初めてだった。

## 2. ドロミテ山群

### トレ・チメ・ディ・ラヴァレド

スイスのウエリ・シュテック (37) とドイツのミッシェ・ヴォールレーベン (23) がトレ・チメ・ディ・ラヴァレド3岩峰の北壁を3月17日から18日にかけて冬季継続登攀した。まず、オヴェストのカシン・ルート (640メートル、5.10、A0) に取付いた二人は、3時間37分でフリークライム (5.11+) した。下降に1時間を費やし、小休止に続いたグランデのコミチ・ルート (500メートル) は通常5.10に若干のエイドをまじえて登られるが、ピッチを長めに区切り、同時登攀をまじえるなどして、4時間47分で完登。雪が深かった下降に時間を取られて、ピッコラの基部に着いたときは夜9時になっていた。エナジーバーを数本口にし、水を補給した二人は、クランボンと手袋を付けたままインナーコフラー・ルート (5.5) を

夜間登攀、真夜中を過ぎたころ頂上に立った。オヴェストの取付きからピッコラの頂上まで15時間42分だった。行程中、仲間から食糧と水の補給は受けたが、登攀そのものは独力で行った。

夏には、スコットランドのデイブ・マクロードがオヴェスト北壁パン・アロマの核心に通じるバリエーション (8c) を登って、Project Fearとした。1968年にゲアハルト・パウアーとエーリヒ・ルドルフ、ヴァルター・ルドルフが登ったエイドルートの出だし90メートルをたどり、左へ曲がるラインから分かれて右手をダイレクトに登って、巨大なハング帯に出る。ここを突破する3ピッチ (6c、7b+、8a+) をマクロードは「ドロミテで出合った最高のピッチだ」と評している。ここで130メートルのバリエーションは終わり、パン・アロマ (アレクサンダー・フーバー、2007年) の核心に合流する。この夏のドロミテは天候が不順で、3週間の滞在中10日未満のクライミングしかできなかった。パン・アロマにつながるラインを発見したのは最終日で、トライすることなくいったん帰国しなければならなかった。2週間後に戻ってきたマクロードはトライを再開。朝の寒さを嫌って午前11時に登攀を開始した。出だしは8a+の長いピッチ。「ここでの墜落は怖いが基本的に安全」だとコメントしている。残る12メートルのルーフ (8c) を抜ければパン・アロマで、これをたどって頂上に出たのは夜11時だった。

グランデ北壁ではドイツ女性イネス・パペルトが8月17日に、Ohne Rauch sirbst du auch (8a) で初のワンデイ・フリー・アッセントに成功した。2010年にハンネス・プファイホーファーとダニエル・ロジェの拓いたこのルートは個々のピッチこそ異なる機会にフリーで登られていたが、ワンプッシュでフリークライムされたことはなかった。

## 【アラスカ/カナダ】

## 1. 中央アラスカ山脈

## マウント・ハンティントン (3,731メートル)

1964年、リオネル・トレイ率いるフランス隊8人が遠征スタイルで初登頂した際に採ったルートが北西稜で、フレンチ・リッジと通称されている。技術的な難しさは、こんにちの基準でいえばさほどではないが、トコシトナ氷河から2,130メートルを超えるルートの長さに加えて、雪崩の危険と雪庇の張りだした稜線が敬遠されて、その後はもっぱら短くて効率のよい西壁が登られてきた。2011年に西壁から冬季第2登を果たしたジョン・フリーとジェイソン・スタッキー（米）は、ブラッド・ファラと3人で北西稜をアルパイン・スタイルでたどり、冬季第3登に成功した。3月1日の昼ごろ、トコシトナ氷河に飛んだ3人はさっそく登りはじめ、3,200メートル付近でビバーク。翌日は16時間にわたって登りつづけて、取付きから36時間後の真夜中頂上に立ち、その直下で2回目のビバーク。下降路は西壁（ネットル＝クワークのクローワール）に採り、出発以来51時間後にして氷河に降り立った。

ウィル・メイヨとジョシュ・ウォートンは西壁コルトン＝リーチから左へ派生する細い氷のラインを認めた。メイヨはさっそくウォートンを誘い、5月10日朝、ポール・ロデリックの飛行機でトコシトナ氷河まで運ばれ、翌日コルトン＝リーチに取付いた。出だしの250メートルをソロしてから問題の氷にとりかかり、M7の核心をメイヨのリードで乗りきると、あとは同時登攀で北西稜に出た。稜線の雪の状態は、まるで「デナリのウェストバットレスみたいに快適」で、ここも同時登攀して午後7時半頂上に出た。ネットル＝クワークのクローワールを下降してキャンプ

に帰ったのは11時半、往復13時間半の「クルージング」だったという。ルート名はScorched Granite (1,280メートル、AI6 M7)。

ハンティントンのすぐ南にあるイディオット・ピーク (3,261メートル) はメイヨが2005年にクリストーマスと初登攀したもの。ユタ州のスコット・アダムソン、アロン・チャイルド、アンディ・ナイトは4月中旬、その西壁を初登攀した。奥まった位置にあるためアプローチにまる1日を費やし、ハングした氷壁や巨大なクレバスを突破しなければならなかった。西壁下部の氷雪壁760メートルを登ると長い氷のリボンとM6の核心となり、氷のスクイズ・チムニーを突破して真夜中にビバーク。翌日南稜に出、東面をトラバースして雪庇を避け登頂。稜線を1ピッチ行った地点から懸垂下降するが、ハンティントンのファントム・ウォール下のトラバースレッジに戻るため200メートル以上も登り返さなければならず、3度目のビバークを余儀なくされた。4日目によりやくハーヴァード・ルートに達し、懸垂とクライムダウンをまじえてBCに帰った。ルート名はDown the Rabbit Hole (1,500メートル VI WI5+ M6)。

## オーガスティン・ピーク (2,595メートル)

ベン・アードマンとジェス・ロスケリーが、キチャトナ山群のなかでも記録の少ないトライデント氷河に入って2つの初登攀に成功した。4月初めの雪質はまだ不安定だったが、二人は入山するとすぐ最初の獲物に取付いた。トライデント氷河の中央と北の支流を分けるリッジの南東側壁にあたり、The Snickle Fritz (460メートル、IV、5.9 A2 M5、80度) と名付けたライン。終了点手前でビバークし、翌日リッジ最上部のコルを経て下降した。天候が回復した4月20日、オーガスティンの北東壁に向かった。壁の中ほどに引っかかっているセラックの危険を避け

るため夜中に出発し、暗いうちにこれを突破。安全地帯に抜け出したところで寝袋に入って暖をとり、陽が昇ってから残りの部分をたどって14時頂上に達した。北東壁は全体の標高差1,220メートル、M3、70度だった。オーガスティンは1977年、マイク・グレイパーら3人によって西壁から初登頂された。アードマンによれば「それ以降の報告を見たことがない」というので、今回が第2登にあたるかも知れない。

## 2. レヴェレーション山塊

### ピラミッド・ピーク (2,613メートル)

アラスカ山脈南西部レヴェレーション山塊の東部にあるピーク。フランスのジェローム・サリヴァンとリゼ・ビオンは冬にジョシュア・ツリーを訪れたとき、この山塊のオーソリティであるクリント・ヘランダーから情報をもらった。二人は、ペドロ・ディアスとジェレミー・スタニエットを誘い、3月17日から約2週間にわたってレヴェレーション山塊を訪れた。最初に試みたのは未踏のピラミッド・ピークだが、選んだラインを2日間登ったところでブランク・スラブに阻まれた。氷河に戻って無名峰に食い込む一条の氷に目を付け、22日から23日に往復20時間で初登攀、ルート名をIliad (900メートル、TD+)とした。諦めきれない4人はもう一度ピラミッド・ピークを偵察し、西壁にラインを見つけた。27日に開始して4日間にわたった登攀は、ハードなミックスピッチと垂直の雪壁、「二度と登りたくない」悪い岩から成る18ピッチで、最後は300メートルのリッジで終わった。下降路は北西壁に採った。ルート名はThe Odyssey (1,100メートル、6b A1 M7)。

### ジ・エンジェル (2,822メートル)

13年夏、K6西峰に初登頂してピオレドールを受賞

したイアン・ウェルステッドが、クリス・アーウィン、ダレン・ヴォンクとレヴェレーション山塊を訪れた。4月2日に入山した3人は、翌日いきなりエンジェルに挑んだ。BCの裏にあるバットレス東壁に食い込む2本の氷の筋に取付いて垂直の短い核心を越えると、頂上と思ったピークに出た。しかし、いくつもある前衛峰のひとつだったことが分かり、600メートルも高い真の頂上まではさらにリッジをたどらなければならなかった。ルート名はJohn Lauchlan Memorial Award (1,200メートル、AI4+ M5)。未踏のダイク・ピーク (2,377メートル) には、入山時に空から見て魅力的なラインを認めていた。アーウィンのリードで2ピッチのWI5を突破して大きなガリーをたどり、山名の由来となったダイクを越えると頂上だった。ルート名はVia Powered by Beans (1,000メートル、AI5 M5) とした。次は主目標のピラミッド・ピーク。2週間早く入山したフランス隊がすでに登っていたが、その左に位置する中央ガリー (1,500メートル) に取付く。しかし、10ピッチ登ったところで雪が降りだし、チリ雪崩が激しくなって追い返された。最後はハイドラ・ピーク (2,377メートル) 東壁。テクニカルなピッチが5つしかなく、薄い氷の登攀にドライツェーリングしたルーフが1、2か所まじるだけだった。これがCasual Route (600メートル、AI4 M6) である。

### タイタニック・ピーク (2,835メートル)

自身過去に2回挑んだピラミッド・ピークの初登頂をフランス隊に譲ったヘランダーは、通算7回目のレヴェレーション山塊訪問をグレアム・ジーマンと果たした。今回は、あまり人の訪れない北東部に目を向け、標高差1,220メートルのタイタニック・ピーク西壁を初登攀した。4月21日に取付いて雪壁を500メートル余り。固い花崗岩のフェースからチム

#### 4. その他

ニーやコーナーのミックス (5.8 M6) を経て頂上に立った。下降路は北稜から東壁に採り、最後は氷河を8キロ歩いてBCに帰った。出発してから22時間半後のことだった。このピークは1981年、フレッド・ベッキーによって登られており、今回が第2登にあたる。二人は数日休んでから次の目標に向かったが、天候が悪化したため諦め、スキーで戻る途中ジーマンがヒドンクレバスに落ちてヒザをひねってしまった。なんとかBCに帰ってフライアウトを要請し、病院で治療を受けることができた。

#### 3. アラスカ南東部とカナダ

##### ウィッチズ・ティット西峰

アラスカ州とカナダのブリティッシュ・コロンビア州の境界に広がるスティキーン氷原の岩峰。有名なデヴィルズ・サム (2,767メートル) の支峰にあたる。ジョン・フリーとジェス・ロスケリーが5月末に西稜を初登攀した。デヴィルズ・サムへはピーターズバーグからヘリで入山するが、着陸地点はサムの南東山麓に制限されているため、取付きまでは氷河と岩稜を越えて行かなくてはならない。5月29日午前3時半にアプローチを開始したが、この行程には8時間もかかり、取付きに着いたのは昼前になってしまった。時刻は中途半端だが西稜下部がやさしそうに見えたので、そのまま続行する。ルートはほとんど手ごたえのあるものになり、M6クラスの核心が続いた。最後のそれ (M7) はロスケリーのリードで突破し、頂上に着いたのは午後11時半だった。このピークの通算第5登。ルート名はNo Rest for the Wicked (460メートル, WI6 M7 A0)。間の中、南壁の下降路が見つからないので、ヘッドウォールを登る途中で横切った初登頂ルート (1995年南西壁、ベルコート=ラックリフ) を下降、出発以来36時間

でキャンプに戻った。

##### マウント・スティーブン (3,199メートル)

レイク・ルーズから東へ、トランスカナダ・ハイウェイを20キロほど行くと、高さ1,000メートル近い壁が見えてくる。それが、「万里の長城」の異名を持つマウント・スティーブン東壁である。以前から話題になってきたこの壁だが、8月7日までは未踏のまま残されていた。スティーブンは北壁にいくつかのアイスルートが拓かれてきたが、テクニカルなロックルートはなかった。10年ばかり前のこと、デイブ・エドガーとデイブ・マーラが東壁をエイドクライミングで登ろうとしたが、壁の下半部でRURPをプロテクションにフックムーブしていて墜落、ヒザに骨まで達する切り傷を負って救助された。昨年は、ソニー・トロッターとトミー・コールドウェルが、ボルトやポータレッジを携えてやってきたが、取付きで危うく落石に当たりそうになって敗退していた。東壁は傾斜がきついうえにスケールも大きく、アプローチのスラブが複雑。そしてなによりもロッククライミングに適した期間が年に4、5週間しか得られないことが支障になってきたのだろうと、今回初登に成功したジョニー・シムズは語っている。彼はクリス・ブラザーと8月に東壁の右半分 (アポカリプス・ウォールと呼んだ) に取付き、傾斜のゆるい下部岩壁から5.11+の固い上部へとつなげて20ピッチのルートを完成した。岩質が変わる境目のレイヤーの個所 (8ピッチ目) では、1ピッチにほぼ半日もかかった。ルート名はThe Accomplice、1,100メートル、VI。ボルトはプロテクション用に18本、すべて手打ちだった。



## 【南米大陸】

### 1. ギアナ高地

#### アコパン・テプイ

米アリゾナ州のエリック・デシャン、ルイス・シスネロス、ブレイク・マッコード、ジョエル・ウネマが1月、北壁に新ルートを開いた。アラン夫妻（英）による初登ルートのPiza, Chocolate y Cerveza（03年、600メートル VI 5.12b R）とシュテファン・グロヴァッツ、クルト・アルベルトらの07年Purgatory（700メートル VI 5.12）の間をたどるもので、1ピッチ拓いてはフリー化し11日間を要した。Gravity Inversion（VI 5.12d/5.12b R）と命名。植生のない壁がほぼ取付き近くまで遣い降りているので、ギアナ高地のビッグウォールには珍しく、この地の恒例である、出だしのジャングル・クライミングは10メートルで済んだという。

### 2. ペルー・アンデス

#### シウラ・チコ（6,265メートル）

ジョー・シンプソンの名作『Touching the Void』（邦訳名『死のクレバス』）は、1985年のシウラ・グランデ（6,352メートル）西壁初登攀とそれに続いた遭難事件を題材としている。グランデの隣にあるチコ西壁も900メートルの高さを誇り、同様に注目されていた。英国のミック・ファウラーが98年に試登したあと、スペインのジョルディ・コロミナスが2003年、05年と挑戦、07年にオリオル・パロと壁の右寄りから6日間を要して初登攀した（ED3 AI5+R A2）。しかし、これはヘッドウォールを右手へ回避していたので、ダイレクトなラインが待たれていた。フランスのフレデリック・ドゥグレ、バンジャマン・ギ

ゴネ、エリヤス・ミレルー、ロバン・ルヴェは5月16日～20日、ヘッドウォールを直登して頂上に抜けた。03年コロミナスの試登ルートから取付いて4日目に登頂したが、雪崩と落石を避けるため、連日午前2時に登り始めて夕方までにビバークに入るという行動パターンを採った。登頂した日もビバーク地で夜を待ち、真夜中に出発して午前3時半に取付きに帰っている。ルート名は、シンプソンの書名をもじってLooking for the Void。

#### モンテ・ケシージオ（5,600メートル）

シウラと同じくワイワッシュ山群南部にあるピーク。イタリアのティト・アロジオ（27）、サロ・コスタ（25）、ルカ・ヴァラータ（23）が6月に西壁の新ルートに登った。まず手始めにコスタとアロジオがツァクラ・グランデ（5,774メートル）東壁に向かい、M6 AI4+の登攀で稜線に出たが、アンデス特有の悪い雪に阻まれて頂上の150メートル下方から引き返した。ケシージオ西壁では2日間かけてEl Malefico Sefkow（ED2 800メートル M5+ AI5）を開拓。しかし通常ルートに合流したあと危険な雪庇に出会い、そこから下降した。数日の悪天候をやり過ごしてからシウラ・グランデに向かい、唯一条件のよさそうなNoches de Juergaに取付いたが、気温が高いため斜面の雪が解け、雪庇の崩壊も懸念されたので5,700メートルで打ち切った。BCを撤収する前日にはモンテ・ワラカ西壁に取付いたが、小粒ながら予期した以上に難しい壁で、エイドギアも時間も足りないため敗退に終わった。

#### フラウラフ（5,330メートル）

イタリアのカルロ・コシとダヴィデ・カッソルが6月、北西壁に2本の新ルートを開いた。カッソルの登山仲間、ティト・アロジオとサロ・コスタ、ルカ・ヴァラータと5人でワラスに着き、バスと徒歩

#### 4. その他

で二つの峠を越えてアプローチ、サラボコチャ (4,482メートル) とフラウコチャ (4,343メートル) の間の4,330メートル地点にBCを定めた。高所順応のため5,152メートルのセロ・グラン・ビスタを往復してから、コシとカッソルはフラウラフ北西壁へ向かい、Laurapaq を初登攀した。上限V+までのロック・ルートで素晴らしい石灰岩だったという。続いてフラウ (5,674メートル) 南西壁に取付き、La Siesta del Bodacious を拓いた。こちらは氷壁ルートで、頂上の下80メートルまで鋭いリッジが一直線に伸びていた。飛び出した東稜には巨大な雪庇が危なっかしく乗っていたので、頂上へは行かずに下降した。案の定、翌日BCへ下るために撤収しているとその雪庇が崩壊、ルートの横200メートルのところを雪崩となって落ちるのが見えた。4日半悪天候をやり過ごしたあとイェルパハ・スル (6,515メートル) 南壁をやろうとしたが、見たこともない垂直の粉雪が形成されていて3回も墜落を喫したことで疲れきって敗退した。もうひとつルートを拓こうと、再びフラウラフ北西壁に向かい、la Zuppa di Pio を登った。上限IV+のロッククライミングで、ルート名はピオ (一行のコック) のスープの意味である。

#### 3. パタゴニア

##### セロ・マリボサ

パタゴニア北部、リオ・トゥルボ支流の源流域に近いラーゴ・マリボサに臨む大岩壁。カナダのマルク＝アンドレ・ルクレール、ポール・マクソーリー、ウィル・スタンホープとアメリカのマシュー・ヴァン・ビーンの4人が1月、18ピッチ700メートルに及ぶルートを拓いて初登頂に成功した。この遠隔の地ではアプローチそのものが冒険で、一行はまず騎馬行、さらに藪漕ぎ、ラフティング、数知れない徒渉

を克服した末にたどり着いた。マクソーリーとスタンホープは09年、アンドルー・ケマーとともに近くのピリタス谷に入っていくつかのピークを登ったことがあり、今回のアプローチはそのときのルートと重なる部分が多かった。一行は、湖を渡ってマリボサ谷を上流に向かい、壁の基部まで荷物を運び上げるのに1週間を費やした。ルクレールとマクソーリーが出だしの5ピッチをフィックスした翌日、まる1日の長い登攀で完登、頂上でビバークした。壁の上にある懸垂氷河からしばしば落石があったが、なんとか危険を避けるラインを見つけることができた。ルート名La Vuelta de los Condors (5.11 A2)。

##### ボルカン・アギレラ (2,480メートル)

アンデスの主要火山のなかで最後まで未踏を誇ってきたアギレラは、パタゴニア南氷陸上に1,500メートル以上突き出している。1986年以來6回挑戦されてきたが、海面から10キロの近さにもかかわらず、濃密な植生と悪天候がアプローチを難しくしていて、山麓までたどり着いたのは1隊だけだった。

1年前の冬(8月)にフエゴ島のサルミエント主峰北壁を登ったカミロ・ラダ(チリ)とナタリア・マルチネス(アルゼンチン)は、チリ2人、アメリカ1人と合同して初登頂に成功した。内陸側からの長いアプローチを選択した一行は、アルヘンチノ湖から出発し、未踏の峠を越えて氷陸を47キロにわたって横断、アギレラの北麓に達した。8月29日に北西面の冰雪斜面をたどって頂上を目指し、夕方全員が登頂、往復25時間でキャンプに帰った。日数に余裕ができた帰途、一行は4つのピークに登ったが、これらはすべて初登頂と思われる。すなわち、無名の2,420メートル峰と2,440メートル峰、セロ・スペガツィーニ東峰(2,290メートル)、セロ・エスペランサ(2,520メートル)である。

### アグハ・ボロンクイ、セロ・マルコーニ中央峰

ボロンクイはセロ・トーレの北、セロ・ピエルジョルジョやポローネの西にあるピーク。アメリカのコリン・ヘイリーとサラ・ハートは13年12月5日、短い晴れ間を利用して南東壁の新ルートに登った。76年にラブ・キャリントンとアラン・ラウス（英）がたどった壁で、最後は頂上の不安定なマッシュルームに阻まれ、一身長の距離を残して下降していたところだ。二人は東バットレスの左にあるガリーを登り、M5のピッチを越えて頂上直下で南稜に出た。ルート名はEl Lobito (400メートル、AI4+ M5 A0)。厳密には初登頂と呼ぶべきだろうが、ライムアイス（霜氷）で構成されるパタゴニア岩峰の頂上は、年により、季節によりうつろいやすい目標ではある。

それから2週間後に訪れた好天の窓に、ヘイリーはローランド・ガリボッティと再びマルコーニ氷河に行き、マルコーニ中央峰に登った。東壁を右から左へ斜上するランペがルートで、ヘイリーが以前からマークしていたライン。昨年9月にソロで2回試みたが、雪の状態が悪く登れなかったものである。12月18日、二人が基部に着いてみるとコンディションはよくなっていて、一部急峻な部分のある60度の氷雪壁を初登、ピークの初登頂を成し遂げた。マルコーニ中央峰は66年にアルゼンチン隊が1回試みただけだった。ルート名はThe Super Whillans (650メートル AI3 M3)、62年にアグハ・ポワンスノに初登頂したときにドン・ウィランスが登った、有名なランペによく似ているからだという。

### セロ・ドモ・ブランコ (2,507メートル)

英国のデイヴィッド・グラッドウィン、オーストラリアのキム・ラディグス、デンマークのクリストファー・シーラスが13年12月、北面の右寄りに3本のピラーを落とす岩塔Los Tres Mosqueteros (三

銃士)に北壁から挑んだ。アルゼンチンとスペインのトリオが前年試みて濡れたオフウィズスに阻まれ、4ピッチで敗退したルート。今回の3人は頂上まで1ピッチに迫ったが、氷の詰まったオフウィズスに追い返された。グラッドウィンとラディグスは、フィッツロイから帰ってきたアメリカのベン・アードマンとエル・チャルテンで出会い、この3人でもう一度トライすることにした。一番目と二番目のピラーにはさまれたコーナーに登った3人はルート名をD'Artagnan (400メートル、7a M6 C1)とした。岩塔の名にちなんだ命名である。

年が明けた1月2日、マイキー・シェーファー、ジョエルとニールのカウフマン兄弟（米）が東壁に氷のラインを拓いた。朝8時にベルクシュレントを越え、クローワールをつないで8ピッチ500メートルを12時間で登攀。07年のLa Suerte Sangrientaと交差するが全行程が新ルート、Super Domo (WI5 M5/6)と名付けられた。

### ペルフィル・デ・インディオ

スコット・ベネットとコールマン・ブレイクスリーはシェーファーらと同じころ、ペルフィル・デ・インディオとアグハ・ピフィーダの科尔に通じる新ルートに登った。1月1日の朝は雪が降って視界も悪かったが、二人は強行を決意。傾斜70度のクローワールを行くと、95度の急峻なウォーターアイスに出た。ブレイクスリーが80メートルロープいっぱいのリードでここを越えるとM5のトラバースから容易なガリーとなって科尔に出た。そこから先は90年に登られたペルフィル……の北稜をたどる。最後の150メートルは、稜線のライムアイスにロープをからめては気休めとする同時登攀で乗り切った。彼らのルートはRimestorm Cowboys (WI5+ M6)と命名された。

#### 4. その他

##### フィッツロイ (3,405メートル)

トミー・コールドウェルとアレックス・オノルド (米) が2月12日～16日、ギヨメからフィッツロイを越え、ポワンスノ、サン・テグジュペリを経てデ・ラ・Sまで縦走した。フィッツロイ縦走は、2008年2月にギヨメからフィッツロイまでのCare Bear Traverseが行なわれ、昨年までに第5登されているが、後半部まで通して登られたのは初めて。リッジ全長は5キロメートルを超え、総標高差は4,000メートル近い。グレードは7a (5.11d)、C1、65度。二人は行程の大部分を同時登攀でこなし、ピレイしたピッチは全部で20 (フィッツロイ北稜ゴレッタ・ピラーで3ピッチ) にすぎなかった。2月12日午前9時45分にスタートして12時15分ギヨメ、午後5時メルモスに立ち、4時間進んでピバーク。翌13日フィッツロイを登るが、分厚いライムアイスに手間取り、頂上は日付が変わった午前2時半。短い夜を過ごしたあとラ・シラへ下り、カキートを越え、午後9時15分ポワンスノに着いた。15日朝、ジャッジメントデイを下降し、ラファエル・ファレスに続いてサン・テグジュペリに登頂。デ・ラ・S北稜の基部でピバークして翌朝頂上に立ち、午前中に氷河まで下りた。

他にも重要なリンクアップが成功した。イタリアのマッテオ・デッラ・ボルデッラ、ルカ・シエラ、シルヴァン・シュプバッハの3人は2月、南西壁のFilo del Hombre Sentadoからスタートし、Destreza Criollaのアプローチピッチを登ってアメリカ人のコルに到達。翌日、アグハ・デラ・シラ東壁から1968年の南西稜カリフォルニア・ルートにつなげたもの。このCalifornia Sit-Startは標高差2000メートル近くあり、5.10+ C1 M4/5。2002年のディーン・ポッターも異なるスタートからほぼ同じ継続に成功して、カリフォルニアン・ルーレットと呼んでいる。

同じく2月、アメリカのオースティン・スラダック、ジュリアン・プーシュ、ケヴィン・プリンスも、12年にスコット・ベネットとチェイン・レンプが登った北ピラーのシットスタート下部に、アグハ・メルモス北西稜基部スラブに始まる70メートル×4ピッチのバリエーションを付け加え、North Pillar Lay Startとした。

##### アグハ・ギヨメ (2,579メートル)

13年12月末、スコット・ベネットとグレアム・ジマーマンが西壁に700メートルの新ルートを開いた。一連のコーナーを数百メートルたどって5.11+のハンドクラックに達し、オフウィズスから狭いチムニーへと広がったクラックをたどる。最後はフィンガーのシンクラックとなり、ここはA1で切り抜けた。ルート名はBossanova (5.11+ A1) とした。

##### アグハ・サン・テグジュペリ (2,558メートル)

フィッツロイのカリフォルニア・シットスタートを登ったデッラ・ボルデッラら3人が、1987年にマウリツィオ・ジョルダニーとロザンナ・マンフリーニ、セルジオ・ヴァレンティーニが登ったChiao di Lunaにバリエーションを付け加えた。

##### アグハ・ティト・カラスコ

アメリカのマイク・コリンズとジョナサン・シェーファーが、2月に北壁に2本のルートを開いた。Halle Berry (300メートル、7a C1) とFree Cowboy Hats (400メートル、6b+) である。横山勝彦、増本亮、佐藤裕介も2本の新ルートを開いてIppon (300メートル、7b A0) とAtari (300メートル、7a) と名付けた。

##### セロ・リンコン (2455メートル)

イタリアのトーマス・フランキーニとフランチェ

スコ・サルヴァテッラが13年11月、以前から話題になっていた南壁を登った。傾斜のきつい、ミックスのディエードルをたどり、右ヘトラバースして雪稜を経て頂上に出た。頂上の50メートル下にせり出しているセラックの真下をたどる危険きわまりないラインで、ルート名はRuleta Trentina (650メートル、WI5 M6)。

#### パイン南岩塔 (2,500メートル)

英国のジェリー・ゴア、カラム・マスケット、マイク・ターナーが2014年10月～11月、フランスのカメラマン、ラファエル・ジョショーを伴って南壁に挑んだ。高さ、幅ともに1キロに達するこの壁は、パイン岩塔群最後の課題といわれており、これまでたった1回しか挑戦されていない。ターナーがステュー・マカリーと06年に試みたものだが、4週間のうち8日しか晴れ間がないという悪天候に阻まれ、頂上の300メートル下方で終わっていた。今回の4人は壁の右寄り、南東側にルートを探った。中間部までは脆い岩で多数のA3+ピッチがあったが、上部はコンパクトな花崗岩となり、フリーで行ける箇所も随所に出てきた。ゴアとターナーがもっぱらエイド部分を交替でリードし、パタゴニア初見参のマスケットがフリー部分を受け持った。3週間にわたって登り続けた4人は岩壁部900メートルを稼ぎ、頂上まで100メートルのミックス壁を残すところまで迫ったものの、登頂日に嵐が爆発、引き返した。ルート名はWall of Paine。